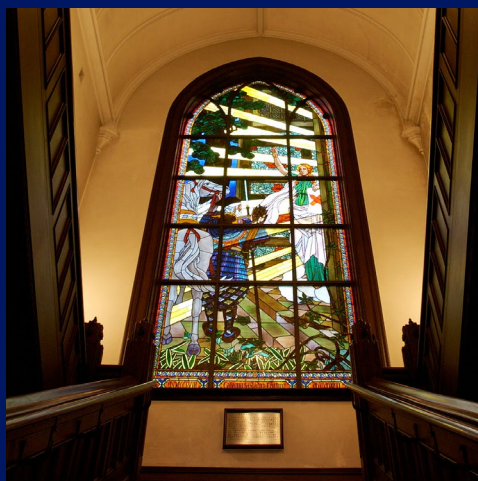




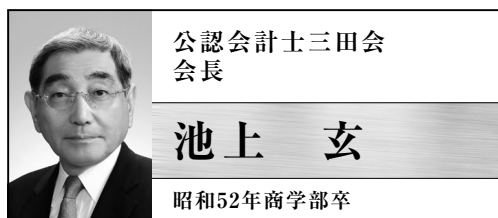
©慶応義塾

公認会計士 三田会 会報

目次

2019年3月 第43号

01. ご挨拶
三田会 会長／池上 玄
02. 伝統を守り進化する
慶應義塾長／長谷山 彰
03. あっという間の平成「30年」間だったなあ感慨して、今思うこと
三田会 年度世話人／高橋 克典
04. 「危機感」とともに
三田会 幹事／関口 男也
05. サムライ
三田会 幹事／池田 由範
06. 最初の1年を振り返って
三田会 新人世話人／柿沼 龍
07. 新たな世界で感じる事
三田会 新人世話人／石井 奈緒
08. 会計士として感じる事
三田会 新人世話人／宮川 和輝
09. 公認会計士試験の状況
10. 公認会計士試験 合格一覧
11. 総会・新人歓迎会・研修会報告
12. ゴルフ報告
13. 役員一覧
14. 公認会計士三田会・会則



ご挨拶

2017年3月に公認会計士三田会会長に就任し、本年3月には任期を迎えることになりました。平成時代の最後となるこの2年間の公認会計士を取り巻く環境変化に対する所感と本会の活動報告を記してみたいと存じます。

2017年1月のトランプ政権誕生以後の米政権の保護主義的政策による貿易・経済摩擦、英国のEU離脱問題、その他のリスク要因などより、世界経済が不透明さを増してきているといわれています。我々が監査・税務・コンサルティング業務などを提供している企業の中には、製造拠点の移転・サプライチェーンの見直しなどの対応を迫られている企業も少なくない状況だと思います。一方、SDGs(持続可能な開発目標)やESG(環境・社会・ガバナンス)への企業の対応が進んできていること、さらにAI(人工知能)、ビッグ・データなどに対する企業の取り組みが、毎日のように紹介されているなど第4次産業革命が進んできていることを感じます。このような環境変化への公認会計士の対応が求められてきていると思います。

昨年、公認会計士法制定から70年を迎えた公認会計士制度では、監査の透明性向上への取り組みが進んできっており、2017年3月には「監査法人の組織的な運営に関する原則(監査法人のガバナンス・コード)」が策定され、昨年7月には監査基準の改訂により、監査報告書に「監査上の主要な検討事項(KAM)」が記載されることになったなど監査を取り巻く環境も変化してきており、新しい課題にしっかりと取り組むことが必要と考えます。

この数年間、監査業務を担う公認会計士の人数は不足傾向にあり、監査品質の向上への対応などのために公認会計士試験受験者・合格者を

増やすことが必要となっています。このような状況に鑑み、公認会計士三田会は、公認会計士という職業の魅力をアピールしてより多くの方に公認会計士を目指していただけるよう活動することに、この2年間重点を置いてきました。活動としては、日吉校舎での公認会計士制度説明会への参加、三田校舎での「ITとAIは監査の未来にどのような影響を与えるか」というテーマの特別講演会での参加者への説明、他大学の会計士会での受験者増加のための方策議論などを行ってきました。皆様にも業界発展のために、より一層のご協力をお願いしたいと存じます。

最後になりましたが、昨年11月に発表された会計士試験合格者数で、慶応義塾出身者がトップとなり、44年連続で合格者数1位の座を維持することができたことをご報告いたします。公認会計士三田会は、塾出身者が集い、お互いを知り、情報交換をし、懇親できる場として、これまで役割を果たしてきましたが、今後もその役割を果たしていくであろうと期待しています。皆様には、ぜひ公認会計士三田会をそのような場として活用していただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



伝統を守り進化する

慶應義塾大学は、公認会計士試験合格者数で44年連続日本一を記録し、数多くの義塾出身の公認会計士が社会で活躍しています。

そして、義塾出身の公認会計士が同窓会を結成して、お互いの親睦を図りながら業務に関する情報交換や研究交流に努め、後輩を支援していることは誠に喜ばしいことです。公認会計士三田会の皆様の長年のご努力に心から敬意を表します。

明治政府が国家機構の整備、法令の制定を中心とする「官」の強化による近代化を急いだのに対して、慶應義塾の創立者である福澤諭吉は、「一身独立して一国独立す」と考え、独立自尊の精神を持つ個人の育成による「民」の強化をめざしました。明治の半ば、憲法制定、国会開設が実現したころには、『実業論』を著し、次の課題として、いまだ不十分な産業界の充実を唱え、多くの門下生を産業界に送り出しました。

福澤は、1873(明治6)年に『帳合之法』を著して、「簿記」の法を教え、消費組合の制度も紹介しています。1903(明治36)年には、塾生達が、三田キャンパスの寄宿舍内で、義塾独自の株式制度を採用して、日本初の消費組合である「慶應義塾寄宿舍消費組合」を設立し、これがのちに産業界に広まっていきました。

このような歴史と伝統を持つ慶應義塾は、世間から財界の慶應と呼ばれてきましたが、財界は健全な企業活動に支えられてこそ、はじめて社会の柱をなすものであり、そのためには公認会計士の存在が欠かせません。公認会計士の主な業務である財務諸表監査は、独立した立場から企業の財務情報表示が適正

であるかどうかについて意見を表明するものであり、公認会計士が資本市場の番人と呼ばれるゆえんでもあります。その意味では、義塾出身の公認会計士の皆様は財界において慶應の伝統を守る役割も果たしているといえます。

他方で、近年グローバル化が加速する中、会計・監査基準の国際標準への適合や、企業のコーポレートガバナンス強化への対応が求められ、公認会計士の業務も多様化していると聞きます。公認会計士には、これまで以上に、幅広い専門知識と深い見識が要求されることは間違いありません。

伝統を守りつつ進化することが求められている時代にあって、公認会計士三田会の皆様が、仲間との絆を一層深め、会の活動を通じて、さらに社会の発展に貢献して下さることを期待します。



あつという間の平成「30年」間だったなあと感慨して、今思うこと

私は、中小個人系として括られる規模の新創監査法人に所属し、代表社員の一員である。公認会計士試験合格者・受験生のリクルートも担当し、昨年秋の採用戦線も、ここ数年と同様、大変残念ながら成果を上げられずに終わった。1人でも2人でもいいのだが、フレッシュな新人を採用しなかった。悔しい。しかし、悲観もしない。当法人についていえば、人手不足は、マネジメントを駆使してその他の方法を考えて補うべきことで、嘆いても仕方が無いし、採用活動の手法についても、まだまだ工夫が足りないだけのことだろう。

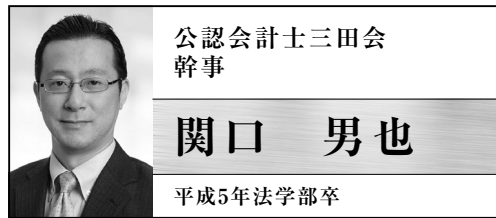
また、合格者の多くが、大手・準大手監査法人を志望して就職するのも、当然であろう。慶應義塾大学をはじめとする有名国立私立大学に人気が集中するのと似たようなものである。情報不足の中では、余程の理由がない限り、無難な選択をするべきだ。

しかし、どこに就職しようとも、公認会計士としての人生は、これから先にどう展開して行くかわからないところが面白いところである。入口のパターンは限られて見えても、そこに生きる個々人の今後の成長具合・パフォーマンスや、満足度・達成感・幸せ感は、本当に一人ひとり多様に異なって進化して行く。公認会計士協会の活動に参加して、実に様々な生き方で活躍する老若男女の公認会計士の聲咳に触れることが多く、本当に感心してしまう。

どこにも正解はない。何が正解と決まったわけでもない。その時、人それぞれは、何を指針に、この公認会計士としての航路を探るべきなのだろうか。私は、一生懸命、仕事をし、様々な意味での勉強をし、なるべく愉快地生きて行こうと努力していれば、自ずと自分の進むべき道は見えてくるのだと思う。あまり心配することもない。ただ、どうしても見えない、決断がつきにくいという岐路には、「自己本位」という言葉から発想して、本当の自分の進むべき生き方、幸せを考えると良いと思う。もちろん、利己主義とも、わがままとも全く異なる「自己本位」。「常識的な」価値観や、家族友人先生世間の望む姿とは異なるかもしれないが、自分を中心に考えて自分を大切に考えた時に出る結論。自分の鶴嘴(つるはし)を、がちりと鉋脈に掘り当てたと感じるまで掘り進めること。

紙幅が尽きました。関心がある方は、夏目漱石の「私の個人主義」を読んでみて下さい。

福澤先生、ごめんなさい。先生の膨大な著作の中にも、きっと同様の趣旨の説得力ある珠玉のお言葉があるはずですが、浅学菲才の高橋には、適切な引用が出来ません。勉強して出直しますので、今回は勘弁して下さい。



「危機感」とともに

公認会計士三田会の皆さん、こんにちは。
私が当時の第2次試験に合格し、会計士補としてキャリアをスタートさせてから早くも25年になろうとしています。これまでを振り返ると、常に「危機感」と付き合ってきたように感じております。

最初は受験生時代に遡ります。多くの皆さんと同様、私も公認会計士試験の専門学校に通い始めましたが、当時の私にとって、公認会計士試験は勉強量が多く、授業についていくのがやっとどころか、科目によっては、ついていけてなかったと思います。周囲の人と同様だろうと勝手に思っていたのですが、それは大いなる勘違いであり、一緒に勉強していた友人は講師の方の説明を一度聞いただけで理解しきっており、授業にも問題なくついていっていました。その時に感じたのが、「ここには頭のキレが凄い人がゴロゴロいる。大変なところに来てしまった…」という最初の危機感でした。その時は、キレがない分は体力でカバーするしかない、という結論に至り、体力勝負で長時間の勉強をしていた記憶があります。

運よく合格した後は監査法人で働き始めたのですが、そこで感じた危機感は、会計士としての自分の知識が少なすぎるということでした。きっと、同期入社の中でも最下層にいたと思います。対策としては、目の前の仕事に必死に取り組むことを通じて(OJTで)知識レベルを上げようとしていました。ただ、OJT以外の自己研鑽は今一つでして、給料を貰える立場になった

喜びから、仕事が終わった後は職場の同僚や大学時代からの友人と飲みに行くことが多かったです。今思えば、危機感を感じつつも、意思が薄弱なため行動が伴っていなかったように自戒しております。

2004年から4年間、海外(ドイツ)の会計事務所に駐在する機会を得ました。その時に感じた危機感は、駐在期間の途中で「関口は役に立たないからドイツでは要らない」と強制送還させられることでした。駐在中は自分に与えられたミッションが「現地事務所の売上アップ」という明確なものであったこともあり、常にその点を判断の基礎において行動するように心がけました。幸いにも強制送還は免れましたが、日本とは異なる感覚を持ちながら働くことの難しさ(と面白さ)を感じた駐在期間でもありました。

最後に現在ですが、監査法人のパートナーとして働いております。一言で申しますと「変化についていけなくなること」が、現在の最大の危機感です。テクノロジーの進化をはじめとして、変化のスピードが速いことは言うまでもありません。この危機感を克服し続ければ、公認会計士として一線で働き続けることが出来ると思いますし、一方克服できなければ、自分自身の公認会計士としての相対的な価値が落ち、マーケットから退出せざるを得なくなるのだらうと思います。そうはならないよう、研鑽を積みたく思っております。

公認会計士三田会
幹事

池田 由範

平成11年商学部卒

サムライ

「英国男性を褒め称える四文字熟語を知っていますか?」

私に英語の発音トレーニングをして下さっている日本人の先生にこう問われ、「英国紳士ですよね。」と私は答えました。「それでは、日本人男性が褒め称えられる言葉を知っていますか?」と更に問われ即答できないでいると、先生は「サムライです。」と答えながら、その理由を教えてくださいました。

元来狩猟民族である英国人は、外に対して攻撃的である文化的・民族的素地を持っており、その中で紳士に振舞える事がより一層の価値を持つ背景があるようです。一方、農耕民族である日本人は、外に対して攻撃をしない文化的・民族的素地がある中で、外に対して攻めていける事がより一層の価値を持つようです。侍ジャパンなどいい例かと思います。

本年は平成最後の年です。過去の変化よりも先新たな時代の変化の方が激しいものになり、その根底にあるのがデジタル技術の圧倒的な進歩だと思います。デジタル技術の進歩により、いつでもどこでも誰とでも繋がり情報を入手する事ができ、AIの進歩により人を介さない取引も多く発生する、そのような世界が今足元で実現しつつあり、今後、より一層進みます。その環境下では、利便性等が大きく増す一方で、一個人の存在感が昔に比べて大きく減少し、互いの真の信頼関係に基づく“人と人との結びつき”が希薄化していくと考えています。「いつも良いものを進めてくれるXXさんがいるからいつものあの店で買う」という事が少なくなり、「同じ物を安価に買えるのであれば、売り手は誰でも良い。」という傾向が強くなっていくように。

私の実家は東京の下町でお茶屋を営んでおり、このような環境変化を肌で感じます。ただ、祖父の代からのお得意様にも依然としてお越し頂いており大変有難いと思っています。その有難みを感じる事ができる事もあり、私はこれからの時代を決して悲観しているわけではありません。多くの事がデジタルで処理され、“人と人との結びつき”が希薄になる時代だからこそ、狩猟民族の中での「英国紳士」、農耕民族の中での「サムライ」のように、デジタル社会の中での、互いの真の信頼関係に基づく“人と人との結びつき”がより一層の価値を持つのだと確信しています。

公認会計士は士業(サムライ業)です。私という一個人を信頼頂けるよう、目の前の方・業務を大切に、私が最も大事と考える互いの真の信頼関係に基づく“人と人との結びつき”を基礎に、農耕民族の中で価値があるとされているサムライを目指し、次の時代に歩を進めたいと思っています。

2018年公認会計士試験の大学別合格者数が44年連続1位となり、大変嬉しく思っており、合格者の皆様方への入会を心よりお祝い申し上げます。“人と人との結びつき”が温かく強いこの公認会計士三田会において、サムライを目指し共に切磋琢磨できることを楽しみにしております。



最初の1年を振り返って

公認会計士三田会の皆様、はじめまして。平成24年経済学部卒の柿沼龍（かきぬまりょう）と申します。この度は新人世話人の一員として本稿に寄稿する機会を頂き、誠に感謝しております。

私は在学時にカメラクラブ、卒業アルバム委員会に所属しており、カメラを片手にキャンパスを駆け回る日々を過ごしておりました。現在は有限責任あずさ監査法人の一員として、主にメーカーの監査に従事しております。

入社以来、主に感じていることを3点ほど述べさせていただきます。1点目として会計監査の道は非常に奥深く、クライアントである企業の実態を知り、会計士として理解を深め、会社に対して真に価値提供出来るようになるためには長年の経験を要することを実感しております。例えば会社の担当者の方とのやりとりでは、どのような伝え方をすればよいのか、駆け出しの身として日々試行錯誤を繰り返しております。

また、2点目としてクライアントや会計監査業界が急激な時代の変化の最中にあることを実感しております。クライアントは海外でのビジネスを強化する過程で多くの海外子会社を有してビジネスを進めており、提携やM&Aも珍しくなくなった現実を目の前で実感しております。また監査人の側も海外の監査人とのやりとりが日常化しており、今後は今までの考え方や環境とは大きく異なる世界になるのだらうと実感しております。

さらに、3点目として会計基準の多様化、変化が想像以上のスピードで進んでいるこ

とを痛感しております。私は入社してすぐにIFRS適用企業を担当する機会を得ましたが、今まで学んできた日本基準との考え方の違いに戸惑うことも多くありました。日本基準であっても現在話題の収益認識基準を一例とすれば、非常に理論的であり、実態に照らし適用していく際には特に理論と実態の両方への深い理解が求められることを感じております。

以上の点より社会からの信頼に応え、業界の一員として会計士に求められることは絶えざる自己研鑽と、そして幅広い好奇心を持ち続けること、これらが絶対的に不可欠であると考えております。また、一人で出来ることには限りがあることも痛感しております。今は周りの皆様に一方的にお世話になることが非常に多いですが、少しずつでも価値を生み出し貢献することが出来るように努力して参ります。

最後になりますが、三田会の皆様におかれましては日頃よりお世話になっておりますことに感謝申し上げますと共に、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



公認会計士三田会
新人世話人

石井 奈緒

平成30年商学部卒

新たな世界で感じること

初志貫徹という言葉が好きだ。目標を決めて、そこに向かって全力で走ることが、今までの私のポリシーであった。そのため、まず頭で考え、合理的に行動してしまう。それは長所であると同時に、自分のつまらないところでもあると感じていたが、そのおかげで、大学生活の幾多の誘惑に打ち勝ち、在学中合格を果たすことができた。そして、一年前の私は就職活動の面接でも、理想とする会計士像に向かって走りたい、と話した。

私は大学四年生で論文式試験に合格したので、会計士人生のスタートを切ると同時に、社会人生活のスタートも切ることになった。

働き始めてすぐに、経済の動きは想像していたよりもはるかにダイナミックで、さらにテクノロジーの進歩により、その変化のスピードは著しく速いことを知った。数十年後の世の中は、今の常識では考えられないものになっているかもしれない。将来、会計士の役割も変わっていくであろう中で、「変化に対応できる会計士にならなければならない」と痛感した。そして、このような社会の中を生きていくことがとても不安で、私ももっと柔軟になるべき、変わっていくべきだと思った。

現在私は、EY新日本有限責任監査法人でスタッフとして監査業務を行っている。この一年間で監査業務以外に、法人のリクルート活動やDigital Audit推進活動に携わったり、ご縁があり、生まれ育った地域に関わる仕事をしたり、様々なことを経験した。これらは、とてもクリエイティブで、もともと私が抱いていた会計士の業務のイメージを圧倒的に

超えていた。

また、出身校が同じというだけで、年齢も職階も離れている先輩方が、親身になって話を聞いてくれたことがあった。私はその方々から数え切れないくらい多くのことを学んだ。

思いがけないことがきっかけとなり、輪が広がって、周りに引っ張られながら、自分も成長していくということが、私には新鮮で、とても面白かった。そのため、これからはもっと周りを広く見渡し、自分の好奇心や探究心に素直に、貪欲になろうと思った。

不安であった社会人生活は、一年が経った今では、チャレンジングで魅力的なものだと感じる。しかし、私がそう思えるのは、会計士という資格があったからこそなのだと思う。

少し背伸びが必要な場所へも、資格のおかげで行けたことがあった。この資格は私に多様な選択肢を与えてくれ、自分の人生の舵を取りやすくしてくれた。

今でも、初志貫徹という言葉は自分を支えているが、その意味は少し変化していて、当時描いていた理想の会計士像は随分とぼやけている。これからは、信念を大切にしながらも、柔軟に変化していきたい。そして、目の前のひとつひとつに、真摯に、丁寧に向き合いたい。

それらを実直に積み上げて、これからの会計士としての自分をつくっていかたいと思っている。



会計士として感じること

皆様初めまして。商学部4年の宮川和輝と申します。このたびは寄稿させて頂くという貴重な機会を頂き誠に光栄でございます。私は大学入学直後の4月から公認会計士試験の勉強を開始し、2017年の論文式試験に合格いたしました。昨年PwCあらた有限責任監査法人に入社し、現在は学生非常勤として保険会社の監査に従事しております。

私が公認会計士を目指そうと思い始めたのは私が高校生の時であります。大学の4年間をかけて取り組むような資格にチャレンジしてみたいと考えており、数字を扱う資格に興味があったということから、公認会計士試験の勉強を大学入学直後の4月より開始いたしました。勉強していく中で、会計は企業の状態・取引結果を数字という形で具現化するものであり、この会計数値をチェックする会計監査という仕事を通じて企業を様々な面から理解することができるということや、会計士の合格後には様々な分野で活躍する道があるということがわかり、勉強していくにつれ公認会計士という資格がますます魅力的になっていきました。

監査法人で働いてみて感じることは、クライアントからは新人かどうか関係なく会計士として一括りに見られているということです。すべての会計士にプロフェッショナルとしての行動が求められているということを感じます。とても厳しい環境ですが、このような環境の中での日々の業務の中で、自分が成長しているという実感があります。また、これら日々の業務の中で学ぶ多くのことは今いる会社でのみ生きる知識ではなく、将来どのような道に進むことになったとしても役に立つ知識であり、成長することの意義を感じております。

また、三田会というつながりの中で様々な方の

様々なお話を伺わせて頂いております。監査法人の就活中はもちろん、就活が終了したあとも法人の枠を超えて様々な方にお会いする機会を頂き感謝しております。しかしお話を伺うだけでなく、三田会の席で、若い人の意見を知りたい、と意見を求められたことがあります。慶應義塾には「半学半教」という精神があります。三田会というつながりの中で様々な方のお話を伺いつつ、自分の意見を述べる機会があるのは慶應義塾の精神が染みついている三田会ならではの感覚と感じました。私がこれまで享受してきた、またこれからも享受するであろう三田会の恩恵を、将来公認会計士三田会に入られる方が享受できる一翼を担えたらと思っています。

最後になりましたが、まだまだ未熟ではありますが、日々精進して参りたいと考えております。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど賜りますようよろしくお願い申し上げます。

《公認会計士試験の状況》

—— 連続 44 年間、合格者数首位を堅持 ——

平成30年公認会計士試験は、平成30年11月16日に合格者が発表されました。

平成30年の公認会計士試験は、願書提出者総数11,742人、論文式受験者数3,678人、最終合格者数1,305人となっています。合格率は11.1%でした。このうち、慶應義塾出身の補習所登録者数は144人であり、2位早稲田の115人に29人の差で首位となりました。これにより、慶應義塾は旧試験制度から44年間連続して、公認会計士試験の王座を獲得しました。

今後も合格者数首位を目指して、塾出身の受験者の確保と合格率上昇のためのバックアップを一層強化できるよう、関係各位のご協力をお願い申し上げます。

【平成30年公認会計士試験の概要 短答式試験受験者等対象】

願書出願者総数	11,742人(前年11,032人)
短答式合格者数	2,065人(前年1,669人)
最終合格者数	1,305人(前年1,231人)
合格率	11.1%(前年11.2%)

【主な大学の合格者数(公認会計士三田会調べ)】

慶應義塾144名、早稲田115名、中央77名、明治77名、東京43名
京都39名、立命館39名、一橋37名、関西学院34名、立教32名

以上

公認会計士第2次試験及び公認会計士試験 大学・年度別合格者数一覧表

公認会計士三田会調べ

年次	順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	1 0 位
1	昭和45年度 (1970)	慶應義塾 39	中央 29	早稲田 26	東京 12	一橋 9	明治 9	神戸 8	同志社 8	横浜国立 7	関西 4
2	昭和46年度 (1971)	中央 51	早稲田 38	慶應義塾 28	明治 22	横浜国立 14	東京 8	神戸 8	同志社 7	京都 5	大阪市立 4
3	昭和47年度 (1972)	慶應義塾 48	中央 47	早稲田 32	明治 17	東京 13	神戸 11	京都 10	一橋 9	横浜国立 6	同志社 5
4	昭和48年度 (1973)	慶應義塾 42	早稲田 30	明治 18	中央 16	一橋 11	東京 9	日本 8	法政 5	横浜国立 2	立教 1
5	昭和49年度 (1974)	中央 65	慶應義塾 61	早稲田 42	明治 25	東京 10	一橋 8	横浜国立 8	法政 7	立教 5	-
6	昭和50年度 (1975)	慶應義塾 32	早稲田 22	中央 16	明治 16	東京 9	日本 6	法政 5	一橋 3	-	-
7	昭和51年度 (1976)	慶應義塾 50	早稲田 44	中央 29	明治 28	一橋 14	日本 8	法政 6	横浜国立 6	立教 6	東京 5
8	昭和52年度 (1977)	慶應義塾 45	早稲田 44	明治 30	中央 26	一橋 13	日本 7	東京 6	法政 6	立教 6	横浜国立 5
9	昭和53年度 (1978)	慶應義塾 39	早稲田 37	中央 34	明治 13	一橋 6	法政 6	東京 5	横浜国立 5	立教 3	日本 2
10	昭和54年度 (1979)	慶應義塾 36	早稲田 29	中央 23	明治 14	一橋 9	法政 8	東京 5	横浜国立 5	立教 5	日本 5
11	昭和55年度 (1980)	慶應義塾 30	早稲田 30	中央 27	明治 17	一橋 9	横浜国立 8	法政 5	東京 3	立教 3	-
12	昭和56年度 (1981)	慶應義塾 26	早稲田 24	中央 20	明治 13	一橋 10	横浜国立 7	東京 6	法政 6	日本 3	立教 2
13	昭和57年度 (1982)	慶應義塾 16	早稲田 18	明治 16	横浜国立 14	中央 11	一橋 8	東京 5	法政 4	立教 4	日本 4
14	昭和58年度 (1983)	慶應義塾 39	早稲田 34	中央 20	明治 19	横浜国立 9	法政 8	一橋 8	東京 5	立教 5	日本 2
15	昭和59年度 (1984)	慶應義塾 54	早稲田 40	中央 27	明治 20	一橋 12	横浜国立 11	東京 8	法政 6	日本 6	立教 3
16	昭和60年度 (1985)	慶應義塾 53	早稲田 36	中央 21	明治 19	一橋 13	法政 12	横浜国立 10	日本 9	東京 9	立教 2
17	昭和61年度 (1986)	慶應義塾 63	早稲田 56	中央 40	明治 28	一橋 12	横浜国立 12	東京 14	法政 13	日本 14	立教 4
18	昭和62年度 (1987)	慶應義塾 68	早稲田 49	中央 36	明治 27	一橋 15	横浜国立 15	東京 13	法政 7	日本 7	立教 5
19	昭和63年度 (1988)	慶應義塾 68	早稲田 45	中央 38	明治 23	一橋 18	東京 13	法政 13	横浜国立 10	日本 6	立教 2
20	平成元年度 (1989)	慶應義塾 108	早稲田 67	中央 35	明治 35	東京 26	一橋 18	法政 12	立教 12	日本 11	横浜国立 9
21	平成2年度 (1990)	慶應義塾 111	早稲田 78	中央 46	明治 36	東京 24	一橋 21	横浜国立 18	法政 15	立教 9	日本 8
22	平成3年度 (1991)	慶應義塾 108	早稲田 101	中央 50	明治 45	一橋 32	東京 28	横浜国立 14	法政 10	日本 8	立教 11
23	平成4年度 (1992)	慶應義塾 126	早稲田 110	一橋 46	中央 41	東京 40	明治 36	法政 24	横浜国立 19	立教 14	日本 5
24	平成5年度 (1993)	慶應義塾 109	早稲田 98	中央 46	東京 45	一橋 36	明治 36	法政 13	横浜国立 19	立教 19	日本 15
25	平成6年度 (1994)	慶應義塾 140	早稲田 102	東京 57	一橋 37	中央 29	明治 27	横浜国立 19	法政 14	立教 10	日本 4
26	平成7年度 (1995)	慶應義塾 134	早稲田 134	中央 41	東京 39	一橋 27	明治 22	横浜国立 15	法政 11	日本 8	立教 8
27	平成8年度 (1996)	慶應義塾 115	早稲田 95	中央 39	一橋 38	東京 34	明治 23	横浜国立 22	法政 14	日本 11	立教 4
28	平成9年度 (1997)	慶應義塾 115	早稲田 85	中央 38	東京 33	一橋 26	明治 24	横浜国立 19	法政 14	立教 12	日本 8
29	平成10年度 (1998)	慶應義塾 119	早稲田 97	中央 34	東京 29	明治 28	一橋 21	横浜国立 14	法政 13	日本 12	立教 9
30	平成11年度 (1999)	慶應義塾 133	早稲田 88	中央 47	東京 47	一橋 35	明治 27	法政 23	横浜国立 21	日本 12	立教 11
31	平成12年度 (2000)	慶應義塾 136	早稲田 90	中央 60	東京 50	一橋 35	明治 35	法政 23	立教 18	横浜国立 16	日本 13
32	平成13年度 (2001)	慶應義塾 155	早稲田 134	東京 68	中央 59	一橋 47	明治 42	横浜国立 22	日本 13	法政 11	立教 11
33	平成14年度 (2002)	慶應義塾 183	早稲田 140	中央 94	東京 75	一橋 54	明治 39	横浜国立 23	法政 22	立教 21	日本 16
34	平成15年度 (2003)	慶應義塾 228	早稲田 152	東京 78	中央 76	一橋 71	京都 49	同志社 48	神戸 47	明治 45	大阪 37
35	平成16年度 (2004)	慶應義塾 208	早稲田 153	東京 93	中央 76	神戸 62	明治 60	同志社 56	一橋 56	京都 50	立命館 40
36	平成17年度 (2005)	慶應義塾 205	早稲田 159	中央 106	東京 61	一橋 51	同志社 48	神戸 43	明治 40	関西学院 40	京都 37
37	平成18年度 (2006)	慶應義塾 224	早稲田 146	東京 73	一橋 69	中央 64	明治 55	同志社 49	京都 48	神戸 38	関西学院 35
38	平成19年度 (2007)	慶應義塾 411	早稲田 293	中央 150	明治 105	神戸 105	同志社 102	東京 99	一橋 94	京都 73	立命館 71
39	平成20年度 (2008)	慶應義塾 375	早稲田 307	中央 160	東京 114	明治 110	同志社 102	一橋 93	立命館 85	神戸 83	京都 82
40	平成21年度 (2009)	慶應義塾 258	早稲田 247	中央 159	東京 84	明治 72	一橋 56	関西学院 56	神戸 52	同志社 52	法政 49
41	平成22年度 (2010)	慶應義塾 251	早稲田 221	中央 152	明治 98	東京 67	同志社 62	立命館 57	神戸 49	関西学院 46	京都 45
42	平成23年度 (2011)	慶應義塾 210	早稲田 169	中央 96	明治 83	立命館 52	京都 47	一橋 46	東京 44	同志社 38	関西学院 36
43	平成24年度 (2012)	慶應義塾 161	早稲田 109	中央 99	明治 63	同志社 49	法政 38	立命館 30	神戸 29	青山学院 29	東京 28
44	平成25年度 (2013)	慶應義塾 121	早稲田 93	中央 77	明治 68	同志社 49	神戸 36	東京 33	関西学院 32	京都 31	青山学院 立命館 26
45	平成26年度 (2014)	慶應義塾 120	早稲田 94	中央 87	明治 69	同志社 43	立命館 29	関西学院 29	関西学院 28	法政 27	神戸 27
46	平成27年度 (2015)	慶應義塾 123	早稲田 91	中央 64	明治 36	同志社 33	関西学院 26	立命館 28	神戸 28	東京 23	専修 22
47	平成28年度 (2016)	慶應義塾 135	早稲田 96	中央 96	明治 72	東京 36	同志社 33	立命館 29	関西学院 27	法政 27	神戸 26
48	平成29年度 (2017)	慶應義塾 157	早稲田 111	明治 84	中央 77	東京 50	京都 48	一橋 36	立命館 31	神戸 29	専修 29
49	平成30年度 (2018)	慶應義塾 144	早稲田 115	中央 77	明治 77	東京 43	京都 39	立命館 39	一橋 37	関西学院 34	立教 32

第42期総会

平成30年3月27日18時から公認会計士三田会第42期総会を開催しました。第42期の事業報告、会計報告を行い、第43期事業計画及び予算を承認しました。

新人歓迎会

総会に引き続き、平成30年新人歓迎会を開催しました。慶應義塾大学商学部長榊原研互先生、経済学部長池田幸弘先生、経済学研究科委員長中村慎助先生、商学部教授永見尊先生、商学部教授横田絵理先生、商学部教授園田智昭先生、商学部教授友岡賛先生、商学部教授高久隆太先生をお迎えして、平成29年合格者をお祝いしました。



秋季研修会・懇親会

平成30年10月16日の18時30分から、慶應義塾大学三田校舎の北館ホールにおいて、秋季研修会を開催しました。日本私立学校振興・共済事業団理事長、慶應義塾学事顧問 清家篤様を講師としてお迎えして「変化の時代の慶應義塾」をテーマに講演をいただきました。研修会終了後は、場所を南校舎のザ・カフェテリアに移して懇親会を開催しました。清家様の大変有意義なお話を拝聴した直後だったこともあり、参加者は明るい雰囲気の中で談笑をし、楽しい一時を過ごしました。



早慶戦ゴルフ

平成30年の早慶戦は、日本女子オープン開催の千葉カントリークラブ野田コースで9月1日に開催されました。

この前いつ勝ったのか覚えていない慶應は、意気高らかに競技に臨みました。伊藤俊哉君、小見山満君が好スコアで回るも、後続がなく、無念の敗戦となりました。早稲田には、来年も試合してくださるよう深くお辞儀してお願いして終わりました。我々は早稲田に負けたのではなく、暑さに負けたのだ、と言いたいところですが、暑いのはあちらも同じです。選手には猛練習を期待して、来年の早慶戦に備えます。



大学対抗ゴルフ十月会

平成30年の公認会計士出身大学別対抗戦「第31回 CPAゴルフ十月会」は、10月8日に茨城ゴルフ倶楽部で開催されました。参加選手約100名となる大会で、慶應はここ数年上位を占めて、早稲田とのデッドヒートをしています。

今年の大会も、慶應の選手は素晴らしい成績を収めました。

山田幸太郎元公認会計士三田会会長、柳澤義一君、岸洋平君、須山誠一郎君が上位を占めて、ネット合計では早稲田を上回り第一位、連続優勝規定により、準優勝となりました。小坂監督の喜びも大きく、祝勝会を開催しますので、皆様のご参加をお待ちしています。



三田会ゴルフコンペ

平成30年の年末恒例三田会ゴルフコンペは、レイクウッドカントリークラブで12月29日に開催されました。

気温は低くボールは飛ばないものの、快晴に恵まれて楽しいゴルフとなりました。ゴルフにご興味のある方、是非お気軽にご参加ください。ゴルフを通じて親睦を深めましょう！



役員一覧

役職	卒業年度	氏名
会長	S52年卒	池上 玄
副会長	S53年卒	小坂 義人
副会長	S59年卒	大塚 敏弘
副会長	S61年卒	関川 正
副会長	H8年卒	吉川 高史
副会長	H18年卒	米田 恵美
幹事	S47年卒	河原 茂晴
幹事	S49年卒	梶川 融
幹事	S48年卒	桃崎 有治
幹事	S51年卒	新田 誠
幹事	S52年卒	小見山 満
幹事	S52年卒	佐藤 行正
幹事	S52年卒	山崎 博行
幹事	S53年卒	沼田 徹
幹事	S53年卒	高津 靖史
幹事	S54年卒	柳澤 義一
幹事	S55年卒	森 高士
幹事	S55年卒	永田 高士
幹事	S55年卒	澤田 尚史
幹事	S55年卒	関口 弘和
幹事	S56年卒	金井 沢治
幹事	S57年卒	篠原 真
幹事	S58年卒	上林 三子雄
幹事	S58年卒	山田 雅弘
幹事	S59年卒	澤口 雅昭
幹事	S59年卒	志村 さやか
幹事	S60年卒	渡辺 伸啓
幹事	S60年卒	古杉 裕亮
幹事	S60年卒	山本 美晃
幹事	S61年卒	海野 隆義
幹事	S61年卒	今村 友紀子
幹事	S61年卒	加藤 達也
幹事	S62年卒	安藤 武
幹事	S62年卒	要石 博之
幹事	S62年卒	上倉 健介
幹事	S62年卒	若林 健太
幹事	S62年卒	尾立 源幸
幹事	S62年卒	川上 尚志
幹事	S63年卒	椎名 弘
幹事	S63年卒	佐藤 裕紀
幹事	S63年卒	田中 耕一郎
幹事	S63年卒	岡田 貴人
幹事	S63年卒	岡谷 直人
幹事	S63年卒	中村 元彦
幹事	S63年卒	新井 達哉
幹事	H1年卒	菅野 達子
幹事	H1年卒	吉田 慶太
幹事	H1年卒	北澄 和也
幹事	H2年卒	高橋 克典
幹事	H2年卒	藤本 貴子
幹事	H3年卒	志賀 森子
幹事	H3年卒	鈴木 真紀江
幹事	H5年卒	荒 張 健
幹事	H5年卒	百瀬 和政
幹事	H5年卒	古内 明美
幹事	H5年卒	山邊 道明
幹事	H5年卒	関口 男也
幹事	H5年卒	神塚 熱
幹事	H6年卒	菅谷 圭子
幹事	H6年卒	松本 憲明
幹事	H6年卒	御厨 健太郎
幹事	H6年卒	関 浩一郎
幹事	H6年卒	石原 宏司
幹事	H6年卒	曾宮 啓介
幹事	H6年卒	松浦 竜人
幹事	H6年卒	田中 弘隆
幹事	H7年卒	森田 健司
幹事	H7年卒	森谷 健
幹事	H7年卒	荒谷 繁
幹事	H7年卒	北村 崇
幹事	H7年卒	秋山 修一郎
幹事	H8年卒	長尾 宗尚
幹事	H8年卒	高山 雄大
幹事	H8年卒	綿貫 敦文
幹事	H8年卒	高木 修
幹事	H8年卒	淡島 國和
幹事	H8年卒	田近 和成
幹事	H9年卒	古賀 智彦
幹事	H9年卒	篠崎 友宏
幹事	H9年卒	三根 大介
幹事	H9年卒	廣野 清志
幹事	H10年卒	江 輔 淳
幹事	H10年卒	間宮 光健
幹事	H11年卒	池田 浩一
幹事	H12年卒	緒方 浩一
幹事	H12年卒	三好 巧
幹事	H13年卒	齊藤 慶三
幹事	H13年卒	本多 守
幹事	H13年卒	国見 健介

役職	卒業年度	氏名
幹事	H14年卒	小松 浩幸
幹事	H14年卒	高山 大輔
幹事	H14年卒	黒澤 久美子
幹事	H15年卒	根 建
幹事	H15年卒	吉田 勇太
幹事	H15年卒	荻野 尚武
幹事	H15年卒	小川 雅嗣
幹事	H15年卒	野池 毅
幹事	H15年卒	双木 宏
幹事	H15年卒	藤本 ひかり
幹事	H15年卒	濱 貴之
幹事	H15年卒	荒井 悠己
幹事	H16年卒	和田 拓郎
幹事	H16年卒	並木 俊朗
幹事	H16年卒	門澤 麻里
幹事	H16年卒	上平 洋輔
幹事	H16年卒	新井 佑介
幹事	H16年卒	佐藤 彩子
幹事	H16年卒	英 正樹
幹事	H16年卒	齋藤 啓太郎
幹事	H16年卒	赤羽 悠二
幹事	H16年卒	柚野 慶二
幹事	H16年卒	依田 知明
幹事	H16年卒	岡田 泰治
幹事	H17年卒	門田 美由紀
幹事	H17年卒	洪浩 寿彦
幹事	H17年卒	加来 義智
幹事	H17年卒	齊藤 雄一
幹事	H17年卒	高梨 良紀
幹事	H17年卒	渡辺 一生
幹事	H17年卒	福島 崇博
幹事	H18年卒	天野 真衣
幹事	H18年卒	清水 麻奈美
幹事	H18年卒	片山 恵
幹事	H19年卒	幡野 裕明
幹事	H20年卒	中谷 恵理子
幹事	H20年卒	清水 陽一郎
幹事	H20年卒	土井 さやか
幹事	H20年卒	山根 寿晃
幹事	H20年卒	平山 拓也
幹事	H21年卒	宮山 韓知
幹事	H21年卒	善林 優子
幹事	H21年卒	大星 宏晶
幹事	H21年卒	豊田 裕文
幹事	H22年卒	上田 彩夏
幹事	H22年卒	渡部 亮
幹事	H22年卒	澤崎 萌
幹事	H22年卒	清水 剛
幹事	H22年卒	森田 雄太
幹事	H22年卒	川西 祐輔
幹事	H23年卒	今野 洋
幹事	H23年卒	芝 由里子
幹事	H23年卒	田中 隆寛
幹事	H23年卒	高野 阿弓
幹事	H23年卒	清水 裕文
幹事	H23年卒	奥山 健人
幹事	H23年卒	渡邊 三南子
幹事	H23年卒	津田 覚
幹事	H23年卒	坂本 修一
幹事	H23年卒	福井 拓志
幹事	H24年卒	富取 祐香
幹事	H24年卒	神原 大樹
幹事	H24年卒	徳田 華子
幹事	H24年卒	矢島 淳太郎
幹事	H24年卒	藤野 里奈
幹事	H24年卒	重澤 一平
幹事	H24年卒	菅原 晃介
幹事	H24年卒	細野 光史
幹事	H24年卒	山本 早和美
幹事	H24年卒	荻野 創平
幹事	H24年卒	野村 孟弘
幹事	H24年卒	山内 里花子
幹事	H24年卒	芦川 昇平
幹事	H25年卒	田宗 千明
幹事	H25年卒	清田 浩介
幹事	H25年卒	井上 大輔
幹事	H25年卒	近藤 祐章
幹事	H25年卒	佐藤 佳樹
幹事	H25年卒	長野 早紀
幹事	H25年卒	山縣 奈央
幹事	H25年卒	浅見 理紗子
幹事	H25年卒	上條 有佳里
幹事	H25年卒	信田 淳
幹事	H26年卒	浦山 太貴
幹事	H26年卒	井口 蔵人
幹事	H26年卒	有馬 大騎
幹事	H26年卒	内藤 翔斗
幹事	H26年卒	福田 彩和佳
幹事	H26年卒	古川 領亮

役職	卒業年度	氏名
幹事	H26年卒	副島 慎太郎
幹事	H26年卒	河合 悠子
幹事	H27年卒	吉田 康太郎
幹事	H27年卒	表 銀珍
幹事	H27年卒	船越 一平
幹事	H27年卒	古川 泰士
幹事	H28年卒	野村 航洋
幹事	H28年卒	山本 健太郎
幹事	H28年卒	大谷 晴香
幹事	H28年卒	柴田 勝浩
幹事	H28年卒	大塚 悠介
幹事	H29年卒	三浦 優一朗
幹事	H29年卒	清水 亮
幹事	H29年卒	郎 善斗
幹事	H29年卒	岡村 拓門
幹事	H29年卒	島 仁美
幹事	H29年卒	井上 貴博
幹事	H29年卒	西村 英莉
幹事	H29年卒	寺谷 暢泰
幹事	H29年卒	水落 智久
幹事	H29年卒	塩谷 香乃
幹事	H29年卒	古作 祐真
幹事	H29年卒	後藤 祥平
幹事	H29年卒	井手 優太郎
幹事	H29年卒	上田 真士
幹事	H29年卒	北野 友梨
幹事	H29年卒	小松 汐里
幹事	H29年卒	渡邊 紘子
幹事	H29年卒	大津 青葉
幹事	H30年卒	森 泰智
幹事	H30年卒	桂木 裕至
幹事	H30年卒	西崎 竜ノ介
幹事	H30年卒	石谷 麻子
幹事	H30年卒	中島 奈緒子
幹事	H30年卒	清田 和輝
幹事	H30年卒	藤澤 大志
会計監事	S55年卒	市村 清
会計監事	H2年卒	茂木 哲也
年度世話人	S55年卒	森 公高
年度世話人	S55年卒	永田 高士
年度世話人	S55年卒	澤田 尚史
年度世話人	S55年卒	関口 弘和
年度世話人	S55年卒	市村 清
年度世話人	H2年卒	高橋 克典
年度世話人	H2年卒	藤本 貴子
年度世話人	H2年卒	茂木 哲也
年度世話人	H12年卒	緒方 浩一
年度世話人	H12年卒	三好 巧
年度世話人	H22年卒	上田 彩夏
年度世話人	H22年卒	渡部 亮
年度世話人	H22年卒	澤崎 萌
年度世話人	H22年卒	清水 剛
年度世話人	H22年卒	森田 雄太
年度世話人	H22年卒	川西 祐輔
新人世話人	H24年卒	柿沼 龍
新人世話人	H28年卒	李 倉幸
新人世話人	H28年卒	後藤 菜津美
新人世話人	H29年卒	酒井 悠吾
新人世話人	H29年卒	清水 一輝
新人世話人	H29年卒	津川 雅樹
新人世話人	H29年卒	笠井 里紗
新人世話人	H30年卒	会川 智華
新人世話人	H30年卒	橋詰 日菜子
新人世話人	H30年卒	石井 奈緒
新人世話人	在学中	安田 真由子
新人世話人	在学中	宮川 和輝
新人世話人	在学中	鈴木 祥希
新人世話人	在学中	相原 理花
新人世話人	在学中	板東 真里
実行委員	H13年卒	野中 将二
実行委員	H18年卒	斎藤 智記
実行委員	H27年卒	阿部 紀子
相談役	S30年退	宇野 皓三
相談役	S36年卒	野田 晃子
相談役	S41年卒	石井 清之
相談役	S42年卒	青木 雄二
相談役	S42年卒	一法師 信武
相談役	S42年卒	杉山 美代子
相談役	S43年卒	湯浅 富治
相談役	S45年卒	山田 幸太郎
相談役	S46年卒	佐竹 正幸
相談役	S49年卒	加藤 晶春
相談役	S56年卒	後藤 順子
相談役	S51年卒	山田 辰己

公 認 会 計 士 三 田 会 ・ 会 則

制定 昭和52年 9月 1日
 改正 昭和55年 1月21日
 改正 昭和58年 1月10日
 改正 昭和61年 1月17日
 改正 平成15年 1月29日
 改正 平成15年12月 4日
 改正 平成20年 1月30日
 改正 平成23年12月14日

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、公認会計士三田会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、会計及び監査に関する学術の研究、会員の知識及び経験の交流、業務の協調、会員相互の親睦並びに後進の指導育成等を図ることを目的とする。

(事 務 所)

第3条 本会の事務所を、幹事会の指定する場所に置く。

(事 業)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1、会計及び監査の実務、学術等に関する研究会、講演会等の開催
- 2、内外の資料の調査、研究
- 3、業務情報の交換
- 4、会報その他刊行物の発行
- 5、その他前各号に附帯する事業

第2章 会 員

(会 員)

第5条 慶応義塾に在学した者で、公認会計士、会計士補、これらの有資格者及び公認会計士試験合格者をもって会員とする。

第3章 役 員

(会長、副会長、幹事)

第6条 本会に、会長、副会長、幹事を置く。会長は1名とし、副会長、幹事は若干名とする。

(会計監事)

第7条 本会に、会計監事2名を置く。

(相 談 役)

第8条 本会に、相談役を置くことができる。

(幹事及び会計監事の選出並びに任期)

第9条 幹事及び会計監事は、会員のうちから定時総会において選出する。
 幹事及び会計監事の任期は、定時総会のときから始まって、就任後第2回目の定時総会終了のときまでとする。

(会長、副会長、相談役の選任)

第10条 会長、副会長は、幹事の互選により選出する。相談役は、会長が指名する。

第4章 総 会

(総会の種類)

第11条 総会は、定時総会及び臨時総会とする。

(総会の開催)

第12条 定時総会は会計年度終了後5ヶ月以内に、臨時総会は必要に応じ、幹事会の議を経て会長が招集する。

第5章 会 計

(会 費)

第13条 本会の経費は、会費、臨時会費及び寄附金をもってこれに当てる。
 会費は、公認会計士は年額10,000円、会計士補ならびに公認会計士試験合格者は3,000円とする。なお、公認会計士のうち近年に卒業した会員に対して会費を一部減額することを認め、その取扱は幹事会にて決定する。
 有資格者の会費については、これに準ずる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

第6章 会則の変更

(会則の変更)

第15条 会則の変更は、総会の決議による。

(附 則)

この会則は、昭和52年9月12日から施行する。

(附 則)(平成20年1月30日改正)

第5条、第12条、第13条の改正は、第31事業年度より適用する。

(附 則)(平成23年12月14日改正)

第14条の改正は、第36事業年度より適用する。

www.cpa-mitakai.net

公認会計士 三田会会報【第43号】

(平成31年3月1日発行 昭和53年1月1日創刊)

編集発行:公認会計士三田会 佐藤裕紀 渋佐寿彦

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-5-1 近鉄霞が関ビル3F
佐藤裕紀公認会計士事務所内

電話:03-6852-6852 FAX:03-6852-6853

E-mail:sec@keiocpa.com